



モビリティ・マネジメント教育情報交換会への期待

【京都教育大学 名誉教授 水山 光春】

第1回モビリティ・マネジメント教育情報交換会が、本(2025)年8月9日に東京都千代田区の日本教育会館で開かれた。筆者も誘われて会議に参加する機会を得た。モビリティ・マネジメント教育(以下、MM教育と略す)と学校教育の関わり的重要性が着目され、本メールマガジンが発行されるようになって15年、ようやくこの時が来たかといささかの感慨を持って、東京メトロ神保町駅を降りた。会議は50人規模で、それほど大規模というわけではなかったが、講演、事例発表、模擬授業、パネルディスカッション、参加者による意見交換、さらに場所を移しての懇親会まで、半日間に凝縮されたプログラムは無駄なく、充実していた。第1回とある以上、近々、第2回、第3回が開かれるものと筆者は勝手に決めているが、その際には100人、200人とより多くの方々が参加されるようになることを期待したい。

本会の継続・発展を前提に、「MM」「MM教育」「学校教育」の関係について、日ごろ思っていること、及び今回参加してあらためて感じたことを以下、少し述べたい。というのも、MM教育とは「それぞれの土地の『交通／モビリティ』の問題を取り上げ、地域や個人が、それに対してどんな取り組みをしていく(＝マネジメントしていく)べきなのかを考える学校教育」(藤井聡、本メールマガジン第1号寄稿文、2011.10.20)のことであり、政策としてのMMをそのまま解説・伝達するものではない。また、学校教育における地域学習(学校ではMMは主に「地域学習」として扱われる)は、地域の在り方を総合的に考えることに主眼があり、交通問題はあくまでもその一部である。しかしながら、現状において、この三者の理解・認識は、関係者(交通事業者・行政関係者・現場教員・研究者)の間で微妙にずれていて、必ずしも一致していない。現在はまだ発表数が少ないのでこれらは混在しているが、本会が発展し発表される事例数が増えるにともない、分科会なども設けられて、これらの関係も整理されていくだろう。そうすれば、MM教育もその立ち位置が明確になり、さらに拡大・発展していくに違いない。その意味でも、今後の会の発展に大いに期待したい。